

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ひまわり II	評価実施年月日	平成21年2月5日
評価実施構成員氏名	辻、窪山、阿部、森、原、永井、近藤、唐川、羽賀		
記録者氏名	窪山 翔	記録年月日	平成21年2月8日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	会社の理念と介護の理念をいつも念頭に置いて仕事をしている。入居者の共同生活の中でいかに一人一人の尊厳と自立を支えていけるか取り組んでいる	○	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ自身が入居者の立場に立って行うケアを心がけていきたい ・認知症になっても人生の先輩として尊敬の心を忘れないように努めている
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の業務の中で慣れから疎かになりがちなのでスタッフにその都度話すようにしている(ミーティングやケアプラン作成時に)	○	スタッフ全員が共有できるように意識していきたい
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会が多いので家族の方の目で感じていただけたらと思う ・パンフレットや提示に理念をのせている ・入居時、家族に十分にお話している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとひまわりの理念について地域に知ってもらうようにしていきたい ・定期的に「ひまわり便り」を地域の関係者に向け送っている
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	一日に何度か散歩の機会があるので近所の人には声かけをしてお隣りが診療所である為受診後寄って行かれる方もいる		ひまわりで行われる行事に近所の方々をお誘いし、接触を多くしたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の敬老会や町のイベントへは全員参加は無理でもできるだけ多くの入居者が参加できるようにしている ・地域から歌謡ショーや琴の演奏に来てくれている 		<ul style="list-style-type: none"> ・体調の状態を考慮し車椅子の入居者の方も積極的に参加して頂けるようにしていきたい ・資源ごみの回収にも参加している
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ自治会に入居者の配偶者が一人暮らしをしているため散歩の途中に入居者を伴い安否確認をしている。 ・ホームのイベントに自治会の一人暮らしの方を招待し楽しんでいただいている 	○	自治会に一人暮らしの方がいるので私たちができる小さな活動を考えていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>昨年指摘のあった箇所は実践に向けスタッフと子ども改善に努めている。 (苦情相談箱の設置・加湿器設置・第三者機関提示等)</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	利用者の家族の参加が最近少ないので声かけをしていきたい
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	積極的に市町村関連の会議には出席していきたい
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	スタッフが日々の介護の中でまたは各々の生活上でストレスをためないように注意している
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	○	家族・スタッフの信頼関係をこれからも密にしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が我慢せず何でも言える環境にしている	○	入居者の声を積極的に取り入れていきたい
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会が多いのでその都度、特変や気づいた事柄を報告している ひまわり便りを家族に定期的に送って近況をお知らせしている		ホーム全体の出来事はひまわり便りで伝え 個人の状況は担当者からの定期的な手紙により伝えている
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を設置し意見や苦情等は有り難く頂き改善へ向けている		家族の思いを尊重し自分が家族の立場ならいつも考えるようにしている
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入居者の変化や状況に応じ勤務体制や仕事内容等を話し合いながら決めている		スタッフが仕事しやすい環境を整えるよう努めている
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	近場の温泉へ出かける時は勤務の調整を行いゆとりのある対応安全に努めている。 家族の応援もお願いしている	○	外出の機会を増やしていきたい
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	なじみの環境の中で入居者が穏やかで安心して生活して頂けるように配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>資格や勤務年数に応じ研修の機会を設けている。資格取得への協力は惜しまない。研修内容をミーティングで発表したり、報告書に記入したりしてスタッフ間で共有している</p>	<p>○</p> <p>・なかなか勤務体制上全員とはいかないのが現状である。 ・スキルアップできるようにしていきたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他事業所(町内)へ研修に行っている。会議等で研修報告を行い意見を出し合いながら質の向上に向けてひまわりカラーを出していきたい</p>	<p>○</p> <p>会議等で同席になるが交流の機会をもっと増やしておくのが今後の課題にしていきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>仕事に関してのストレスよりも、スタッフ間の人間関係が問題だと思われる。早い時点で対応できるようスタッフの声に耳を傾けるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>何でも話せる環境にしていきたい</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>チームワークでの仕事でありスタッフ間の協力・連携なくしてはできない。スタッフのやる気が入居者を元気にしていくものだと思う。</p>	<p></p> <p>担当制になっており、入居者一名に対して一名の職員が体の機能をおとさないためのプランを立てる</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居経緯の中でどちらかという受け身の立場になってしまう本人の思いをいつも重く受け止めるようにしている</p>	<p>○</p> <p>本人の思いになっていつも考えることも忘れないようにしていきたい</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人からではなく家族サイドからの問題のケースが多いのが現状である(入居希望) 家族の思いも理解できる 入居前訪問話し合いを持っている</p>	<p></p> <p>家族が最も求めていることに対して、具体的にどのように取り組んでいるのかを示す</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	経営者が医者なので医者の目で他のサービスを利用すべきかホームでの生活かの判断が明確である 他事業所への相談等行っている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	すぐに入居するのではなく何回か来て頂きホームを見ていただいてから入居してもらっている	○	入居前に試験的滞在等も考慮していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活する家族という気持ちで朝の掃除、洗濯物たたみなど本人ができることはして頂きやって頂いたことに感謝の言葉を伝えている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・家族と一緒にこの人がもっと元気に生き生きと生活できるように支えている。 ・行事など家族に参加して頂いている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会される時はいつもいい顔で会って頂けるような雰囲気作りを心掛けている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時に家族の顔を忘れられる場合があるので面会時に写真を撮るなどしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士時にはトラブルもあるがお互いを気遣い助け合い一緒に生活するうちに仲間意識が生まれ一つの家族になっている	○	性格的に孤立してしまう入居者の対応にスタッフが関わるようにしている
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなり退所された家族の方とのお付き合いは続いている ・入院された方への見舞いも行っている	○	縁があって入居されたのでたとえ退所されてもそのご縁は大切にしていきたいと思っている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを我慢せず話せる環境づくりはいつも心掛けている	○	性格的に自分の方から訴えない入居者の声に耳を傾けるように心掛けていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活環境、人生観は一人一人異なり入居経緯を踏まえてその人らしい生活ができるよう心掛けている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	体調を崩されたりまた認知症が進行してきていたことができなくなっている現状を把握し今できることを継続し出来そうなことへとつなげるようにしている		達成感が持てるように自分の役割としての誇りが感じられるよう支援している
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者一人に担当のスタッフがケアプランをたて月二回のミーティングに他のスタッフの意見やアイデアを取り入れながら短期計画から長期計画へつなげている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて評価を行いその都度ケアプランを立てているが期間中に変化があった場合または介護度の変更に伴い新たな計画を作成している		家族の意見や要望も出してもらいケアプランに載せている
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・月二回のミーティングで体調の変化・服用している薬、いつもとは異なる状況等を話し合い実践に向け見直しを行っている ・連絡帳によって情報を共有している	○	時に情報が共有されていないことがあるので連絡は正確に伝わるようにしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・入居者の配偶者が地域で一人暮らしをしているので安否確認を行っている。 ・家族の希望に応じ外泊、外出は自由である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	週二回将棋ボランティアの方に来て頂いたり週一回歌の会にはピアノの先生に来て頂いたりして楽しい時間を過ごしている。	○	他機関の協力を考えていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ホームでの入浴が困難になっている入居者の方に入浴サービス利用を問い合わせるが在宅でありながら利用できないシステムに矛盾を感じている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの職員が推進会議のメンバーである		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	隣りの診療所に月2回往診して頂いたり本人・家族の希望により定期的に他の病院受診も援助している		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域に認知症の正しい診断をしてくれる病院がないのでかかりつけ医と相談し受診できるよう支援している	○	精神薬を使用しないケアをしていきたい。認知症の人との接し方についての勉強会をやっていきたい
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隣りの診療所看護師が隔週訪問している 状態変化時は電話による24時間体制で対応してくれる		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	隣りの診療所→総合病院と連携している 入院中も見舞状況把握に努め退院に向けリハビリなどで協力している		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居者さんの変化に伴い家族、かかりつけ医と話し合う機会を持っている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームでの介護において「できることできないこと」を見極めながら入居者さんにとって安全かつよい方法を考えている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>病気のためホームから病院へ移られたケースがあるが家族との話し合いを十分に行っている</p>	○	<p>自宅へ帰って生活ができるようならそれに向けての支援をしていきたい</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄や入浴時においてその人に合った同性介助等の配慮をしている いつもその人のプライバシーや自尊心を傷つけることなく行っている</p>	○	<p>年長者・人生の先輩ということを心掛けて接していきたい</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>トイレまでの動線に表示をするなどしているが場所を聞かれる時がある。納得できるように誘導するようにしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>スタッフ側のやり方を優先するのではなくたとえ時間がかかってもその人のペースに合わせてケアするようにしている</p>	○	<p>ゆとりのある気持ちでケアできるようにしていきたい</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>以前行っていた理容店へ定期的に行きヘアダイやカットも希望の店で行っている</p>	○	<p>出来るだけ外出の機会を増やしていきたい</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>誕生日には好みの食べ物を提供し喜ばれている。野菜の下処理や食器洗い、配膳下膳すぎ片付け等のお手伝いをして頂いている</p>	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ時やその他の時間帯に好みの飲み物を提供しスタッフと一緒に飲んでいる タバコを吸う人はいない		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	容易におむつ、紙パンツにせずできるだけ自力でもしくはトイレ誘導によりトイレで排せつできるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	勤務体制上入浴は午後からになるが出来るだけ希望に沿うようにしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	午睡する人は自分のペースで行っている。 自室で休んでもホールのソファで横になったり自由にしてもらっている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編み物や壁の飾り物を作る入居者の方がいる 作ったものを地域の事業所においてもらっている 注文がきて張り合いになっている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近所のコンビニに散歩の途中に寄ったり大型店で編み物の毛糸、衣類等を買ったりしている 希望で3000円ほど所持している入居者がいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来るだけ外出の機会を設け戸外に出かけるようにしている		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地域の温泉へ家族の協力を得て何度か出かけている	○	入居者の体調やスタッフのシフト状況を調整しながら外出の機会を多く作っていきたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話や手紙は来ているが入居者さんサイドからはない	○	面会が多いので必要は感じられないが希望があれば支援していきたい
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の訪問を心待ちされているのでゆっくり過ごしていただけるようにしている		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修に出かけ禁止対象になる行為等をスタッフ間で把握し理解に努めている事例について話し合う機会を持っている	○	身体拘束の起きない介護の質の向上に努めていきたい
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関にかぎをかけていないが一人の入居者の方が入居当初何度も出かけられ苦肉の策としてげた箱にセンサーを取り付けた経緯があった夜間のみ施錠している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は多くのスタッフの目で夜間は二人のスタッフの目で安全に努め3度の見回りを行っている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・薬品等は棚の高い場所に保管している ・はさみ、爪切りは使用できる人はやってもらっている		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	懸念されることが転倒・誤嚥からの肺炎であり生活する上で一人一人の状態を把握し事故防止に努めている		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・急変時やいつもと違う体調の変化を逃さず申し送りが共有できるよう連絡網を作成し速やかに対応できるようにしている ・救急救命・そ生の訓練を受けている		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	隣りの診療所・薬局の協力は得られる ・年二回の避難訓練を行っている ・緊急連絡網を作成している	○	地域も老人世帯が多いのが現状であるが働きかけていきたい
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	現状から今後起こり得る事柄について説明しリスクを恐れず今まで同様の生活ができるようスタッフ間で対応を共有している		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	運営者がDrなので体調の変化や異変に速やかに対応できクリニックとも連携がとれている		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・特に下剤について排便状態・間隔等に合わせてDrの指示のもとに用量を調整している ・食前・食後の配薬には十分な注意を行っている ・薬局が内服薬を管理している	○	長い間、下剤服用のため効用がなくなっており浣腸やレシカルボンを使用時には摘便を行っている。気持ち良く排便できるようにしていきたい
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘になると不穏や混乱状態になることが多いので食事時やおやつ時以外に水分補給できるように努力している。また副食に食物繊維の物を取り入れるようにしている。 ・毎日の体操を行っている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自室に歯ブラシ等を置かれている入居者の方は毎食後磨けていない	○	洗面所に置いておくことで毎食後磨けるようにしていきたい
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は使用するカップの量で把握できている。習慣でなかなか飲んでくれない入居者の方には好みの物を提供している。体調を崩され食事を摂取できない時には他の物で補えるように食事スタッフと情報を共有している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・食前の手洗い外出後のうがいを励行している ・インフルエンザワクチン スタッフも必ず摂取している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	近海の海の幸や町内の野菜・果物等地物の新鮮な食材を提供している まな板は定期的に、布巾は毎日消毒している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに草花を植えたり手作りの表札をかけなじみの場所であり自由に訪れて頂けるような環境にしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールは窓が大きく暖かいので日向ぼっこや居眠りをされている入居者がいる。ホールや花壇に季節の花がいつも咲いている。家族が定期的にお花を持ってきてくれている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースのホールの他に離れた場所にソファがあり一人の時や何人かの入居者の方が過ごされている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスや仏壇等を置かれ入居前の生活を継続して頂いている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日に何度か空気の入替えを行い室内が乾燥しないよう加湿器や洗濯物を干すなどしている。室内を20度に設定し各自寒ければカーディガンや服等で調整している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっているがそれが安全かつ自立につながらないように思われる	○	建物内部がバリアフリーの生活をしているため外出の際正座やちょっとした段差が大変になっているので体操中に踏み台運動を取り入れるなどしている
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できること、できないことを把握失敗体験からの不穏や混乱を招かないようにしている。トイレへの表示板を取り付けている	○	出来そうなことへつなげ自分の仕事としての役割意識を持ってもらっている
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	暖かい日には外でお茶をしたりして楽しんでいる		日光浴や戸外での合唱

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	①

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)認知症であっても「その人らしい」生活ができるよう、一人ひとりの生活歴・性格・思いを把握し、スタッフと共に生活していく仲間=家族という気持ちで接し、ここが自分の居場所であると感じて頂けるように支えていきたい。笑いのある家を入居者・スタッフと作りあげていきたい。